

コントローラ市場の現状と シーケンサ及び関連製品の動向

杉山 彰*
丹羽正美**

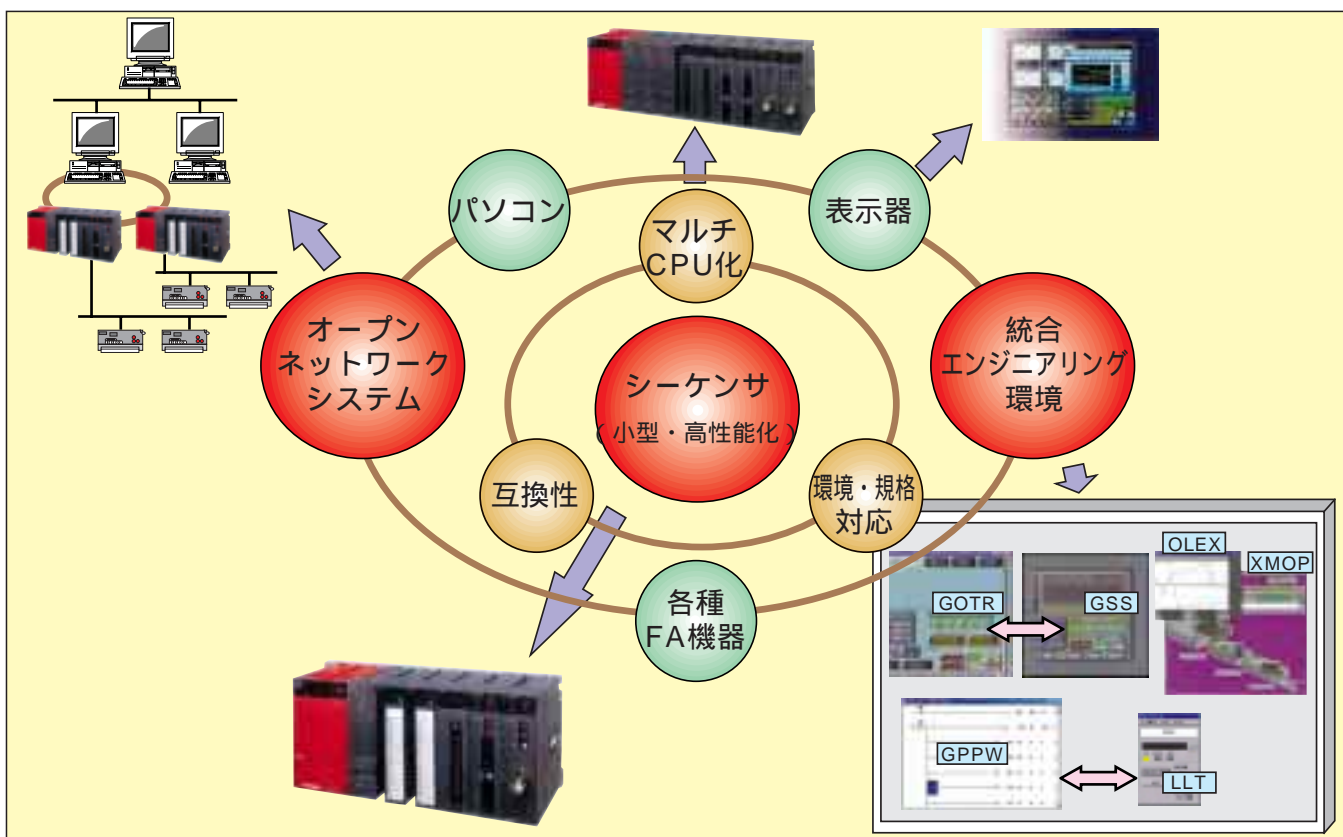
要 旨

最近のコントローラ市場の動向は、パソコンやネットワークに代表されるオープン化・マルチベンダー化、さらには企業活動のボーダレス・グローバル化を背景とした標準化・規格化の進展が顕著である。一方、ユーザーから見たシーケンサ(プログラマブルコントローラの三菱電機の商品名)及びその関連製品の利用目的は、単なる製造ラインの自動化から、間接業務を含めた総合的な効率化とコストダウンへと、更に高いレベルへシフトしてきている。これは、景気が低迷する中、徹底したコストダウンを図りながら、競争力の向上、企業体質の強化、利益の維持・増大をより強く求められており、生き残りをかけた厳しい競争の時代へ突入しているためと言える。

具体的な市場ニーズとしては、次の4点に集約される。

- (1) トータルエンジニアリングコストの削減
- (2) 高性能化・高機能化
- (3) オープン化・グローバル化への対応
- (4) ダウンタイムの削減

これらの市場ニーズに対して、生産設備の中核的コントローラであるシーケンサ及び関連製品の全般的技術動向を概説し、併せて当社シーケンサ(14年ぶりにシステムアーキテクチャを一新したMELSEC-Qシリーズ、超小型マイクロシーケンサMELSEC-FXシリーズ)及び関連製品(ネットワークシステム、プログラミングツール、表示器、モーションCPUユニット等)の動向と展望について述べる。



三菱電機のシーケンサ及び関連製品の動向

生産設備の中核的コントローラであるシーケンサを中心として、オープン化・マルチベンダー化の要求の強いネットワーク及びエンジニアリングコストの削減を目指した統合エンジニアリング環境などの関連製品と密に連携し、トータルソリューションの実現を目指している。